

子供と結核

醫學士 青木醇 一

昔は結核と云ふ病氣は、主として大人の病氣であること見做されて居て、小兒には餘り傳染せぬものゝ様に考へられたのであります。然るに近來では、小兒にも結核性の疾患が非常に多い事が知られて來たのみならず、小兒期は特に結核に傳染し易い時期であること云ふ事まで明らかになつて來たので、「子供と結核」と云ふ問題は、近來特に重要な問題とさるゝに至つたのであります。

○結核の傳染は小兒期に多い

然るに、未だに小兒には、結核は比較的稀であることか、或は、小兒には結核の傳染は少いことか、考ふる人が決して少くないのは誠に遺憾に堪へません。近頃では、結核の豫防の點から考へても、子供に傳染させぬ事が最も大切だと迄云はれて居ります。それは、子供が結核に傳染し易いこと大人の結核の多くが其

の小兒時代に傳染したものである事が知られて來たからであります。

○結核の傳染は小兒期が多い

現今では、結核の傳染は、小兒期に多いこと云ふ事實は、種々な方面から證明されて居るので、殆んど疑ふ餘地はありません。實際、小兒を檢査して見ても、結核性の疾患は、決して少くないのですが、それよりも確かなのは、小兒の屍體解剖上の結果であります。臨牀上、結核性疾患のある者は勿論であるが、結核以外の病で死亡した小兒の死體を解剖して見るに、意外に結核の病的變化を其の小兒の臟器に認むる事が多いのであります。殊に、肺臟とか淋巴腺などには著しい、そして此の割合は小兒の年齢の増すにつれて多い。之を數字で示して見るならば、

年齢 〇一年 一二年 二三年 四六年 六十年 七十四年
 結核病竈を有する者
 (百分率) 一五 四〇 六〇 五六 六三 七〇

之に由つて觀れば、既に滿一年迄の乳兒でも百人中五人位は結核に傳染しておる事が知られる、そして、四年か五年の小兒では其半數以上は、皆結核の傳染を経過して居る事を示しておる譯であります。之とほゞ同様の事實を、私共は屍體でなく、健康に生活して居る小兒に就ても、發見する事が出来る。それは「ツベルクリン」皮膚反應(ビルケ氏法)と云ふ特殊の方法によつて決めるのであります。「ツベルクリン」と云ふのは、結核菌毒から作られた薬である、此の薬を、注射針の様なもので、小兒の皮膚にすり込むと、曾て結核に傳染した事のある小兒では、之に對して反應を起し皮膚のその部分が赤く腫れて来る、然るに少しも結核の無い者は、此の反應が現はれない、之に由つて、吾々は、子供が結核に傳染した事がありや否やをほゞ區別する事が出来る。

斯様な方法に因つて、小兒を檢査して見ると、丁度前に擧げた解剖上の結果と大體に於て一致した成

績が得られるのである。

年齢 一二年 三四年 五六年 七十年 七十四年
 ビルケ氏反應陽性の者
 (百分率) 九二〇 三三 五二 五六一 七 四

此の成績から見ても、人は小兒の時代に大多數結核の傳染を経過するものである事が知られるのである。尤も此反應が陽性である人は凡て結核であると云ふのでは勿論無い。たゞ、其の人が、曾て結核に傳染した事が有るか無いかを知る丈である。結核と云ふ病氣は以前人々が考へて居た様に不治の病ではない、非常に治り易い病氣である。右の統計からも知らるゝ様に、子供が結核に傳染する割合は、非常に多いのであるが、之に比較すると事實結核に悩んでおる者は割合に少い、それは、一は結核は治癒し易い病氣であるためである。一旦傳染したからとて皆症状を現はして来る譯ではない、其の中には知らぬ間に治癒つて了ふのが随分多い。此の事は、子供の屍體を解剖した場合に結核病竈の既に治癒して居るものを屢々發見する事でも判るのであります。

次に結核には所謂潜伏性の形をとるものが随分多い、即ち完全に治つた譯ではないが、長い間少しも病的症狀を現はさないで居る場合が可なりある。然し之は將來何等かの機會に乗じて、再び病的症狀を呈して來る事がある。殊に其の子供が不攝生な生活法をしておるとか、又は健康を害した様な場合其の虚に乗じて之迄潜伏して居たものが新に病勢を逞しうして來るのである。青年期になつて結核に罹る者の多いのはよく人の知る處であるが、是等の多くは、小兒の頃に傳染したものが長く潜伏性の形で居たものと認むるのが至當である。

斯様に、結核は、小兒の頃に傳染し易い病氣であるから、結核豫防と云ふ様な問題も、小兒に對して特に注意する必要があります。

○結核と體質

斯様に結核は傳染し易い病氣ではありますが、子供が健康で、體質が良ければ、決して病氣に負ける様な事はない。一旦傳染しても自身少しも氣付かぬ内に、自然に治癒して了ふ場合が珍らしくない。然し、小兒の體質が劣等で、身體に抵抗力のない場合

は、兎角病氣に負け易い。それ故身體の虚弱な子供は、勉めて攝生に注意し、其の體質を改良して行かねばなりません。昔は、結核を遺傳病だと考へた、今でも随分こう云ふ誤つた考を以て居る人が世の中には澤山ある、併し、結核と云ふ病氣は、決して遺傳病ではない。一つの慢性の傳染病である。但し、人によつて之に侵され易い人と、侵され悪い人がある、それは即ち體質の相違であります。かの、ある一定の家族に特に、結核が頻發するのは病氣が遺傳するのではなくて體質の悪いのである、即ち結核に罹つて居る様な人々の子孫は、矢張り結核に罹り易い體質を遺傳するのである。而し、生來悪い體質をもつて生れた子供も、養育法がよろしければ、立派な體質にかへる事も出来るし、又、全く健康な體質をもつて生れた子供でも、色々の機會で、随分結核に罹り易くなる場合が少くない。例へば、不衛生な生活方法をして居るごか、又は榮養が悪いごか云ふ様な事で、身體の抵抗力は減じ、其の爲めに結核を發し易くなる事も屢々ある。又特に顯著なのは、麻疹や百日咳に罹つた後には、兎角子供が結核を誘發し易い事でありませぬ。

○子供の結核は麻疹や百日咳に

續發する場合が多い

子供の結核を仔細に調べて見ると麻疹や百日咳に引き續いて起つて來る場合が殊に多い。之は何故であるかと申しますと、麻疹と百日咳とは、多くの病氣の内でも、殊に子供の體質を悪くし、身體の抵抗力を少くする病氣であります。それで、子供が麻疹や百日咳を患つた後には、兎角結核性疾患に傳染し易くなるのである。又、これ迄潜伏性の結核のあつた小兒では、此の機會に乗じて急に結核症狀の現はれて來る事なども決して珍らしくは無い。それから、又、結核に罹つて居る子供が、麻疹や百日咳に罹ると、其の病勢は著しく増進するのが普通である。斯様に、麻疹と百日咳とは子供の結核とは密接の關係のある病であります。それ故に麻疹や百日咳の折には、特に手當をよくし、早く治療せねばなりません。そして、又、輕快後と雖も、他の病氣以上に攝生を守つて、一日も早く健康を恢復し、身體の抵抗力を増す様に勉めねばなりません。斯様な譯で生來良い體

質の子供でも、何かの機會で體質の悪くなる事は決して少くありません。殊に麻疹などは殆んど凡ての子供が罹ると云つても過言でない程に多い病ですから、特に幼兒を持つ母親などは、注意せねばならぬと思ひます。其の外、流行性感冒の後などにも、子供は體質が虚弱となり、結核に侵され易くなると云はれて居ります。

斯様な譯で結核に罹つておる人の子であるから結核に罹るとか、家系に少しも結核患者がないから、結核に罹らぬと云ふ理由はない、結核患者の子供でも、攝生宜しきを得れば、次第に強壯となり、結核に侵され悪くなるし、又生來健康な子供でも、攝生が悪ければ結核に侵され易い子供となるのである。

○子供の結核

以前には、結核と云へば直ぐ肺結核とのみ考へたのですが、西曆一八八二年にコッホ氏が結核菌を發見して以來この病氣は肺臟以外に色々の臟器を侵すものである事が知られて來ました。殊に子供には、肺臟以外結核菌に侵され易い器官が多い、大人では結核と云へば肺結核が大部分を占めて居りますが、子

供では肺結核以上に淋巴腺が侵され易い。それで淋巴腺結核が非常に多いのであります。殊に、氣管枝の周圍に散在してゐる氣管枝腺などは、よく侵されます。肺結核を起す場合でも、大人では肺尖結核から初まる事が最も多いけれども、子供では、却つて肺尖の侵される事は少く、先づ氣管枝腺結核を起し、之が進むと其の周圍の肺組織を侵す様になるのが多い。それ故に、氣管枝腺結核の頃に早く診斷を確定して治療する必要がある。其の他頸部の淋巴腺などが結核に侵され易い事は一般に知られておる事實である。彼の所謂腺病、俗に云ふ瘰癧などは、矢張り之である。(最も世俗で云ふ腺病と云ふものゝ内には結核性でないものが随分多い)。

其の外子供の結核として屢々あるのは、彼の結核性腦膜炎であります。之は大人には少い、又年長の子供に比較的少く幼児に最も多い、又、結核性肢關節炎なども子供に特有なもので之も三、四歳位の子供に屢々見らるゝ病氣であります。斯様に子供の結核は大人とは色々變つた點のあるものであります。

それから尙一つ子供の結核で注意しておき度い事は、子供が年少であればある程結果の悪い事です。乳

兒などは結核にかゝれば凡て死亡すると迄云はれております。従つて幼少な子供程傳染させぬ様に保護してやらねばなりません。

○結核の症候

前にも述べた様に、結核と云ふ病は、決して不治の病ではない、否、寧ろ治し易い病氣である、而し病が進行した場合には、極めて癒り悪くなるのが特徴であります。夫れ故、其の初期に當つて、適當の治療をするのが最も肝要です。然るに、結核の初期は、一般に極めて徐々に起るので、屢々看過されることがある。そして、氣のついた時には、可なり病の進行した場合であることが決して少くない。殊に、子供では、母親などが餘程注意して其の健康状態を観察して居ないと看過する場合が多い。それ故、初期の徴候を一應心得て置く事は最も大切な事と信じます。

勿論結核の初期と申しても、侵された器官によつてそれ〴〵異つた症状を示すものであるが、大體の一般症状はほぼ一致して居ます。それでこゝには初期の一般症状をごく簡單にお話しておきませう。先づ第一に別にこれと云ふ原因もないのに、子供の元

氣が無くなる、平素機嫌よく遊んで居た子供が、何となく不活潑になる、或は不機嫌になる。それから食欲が減じて来る。其の内に追々と顔色も悪くなる、續いて瘦せが見えて来る。勿論是等の症状は極めて徐々に起るので、母親に氣付かれない場合が随分ある、斯様な際に子供の體温を測つて見ると、多くは平温よりも多少高いのが普通である。斯様な症状を發見したならば早く醫師の診察を乞ふ必要がある。此の頃に適當な治療を施せば、割合に早く治癒する事が出来る。

○結核の豫防と手當

次に大切な事は結核の豫防法であります。前にも述べた様に、結核は小兒期に多く傳染する慢性病ですから、結核の豫防法を講ずるには、子供に傳染させない様にするのが最も肝要と云はねばなりません。豫防の方法としては、第一には出來得る限り傳染の機會を避くるにあります。それには結核患者と接近せぬ様にせねばなりません。殊に結核患者と同棲する事は最も傳染の危険が多い譯ですから、家族の内に結核患者のある場合などは、たとへ骨肉の間

と雖も患者と他の健康な家族とは互に隔離する様にせねばなりません。殊に子供が幼少であればある程病氣は危険ですから子供は決して結核患者に近づけてはなりません。次に豫防に必要な事は、子供の身體を丈夫にして抵抗力を増す事でありませう。兎角身體が虚弱だと結核に侵され易いけれども、丈夫であれば容易に侵されない、傳染の機會はあつても結核菌の侵入の餘地がなくなりませう。子供を健康に育てる上には、種々の注意が要りませうが、殊に結核に對して抵抗を強くする上に、最も大切だとせられて居るのは榮養と日光と空氣の三つであります。そして結核の治療の際にも此の三つが最も大切な要件であります。それ故に結核に罹り易い素質をもつた子供や、腺病質の者には特に是等の點に意を用ゆるがよい。食物は出来る丈滋養の多いものを選ぶがよい、そして體力を増し結核に對する抵抗を強くする様にせねばなりません。次に日光に浴する事が必要です。それで暖かな晴天の日などは、可成戸外に出して遊ばせるがよい、子供の日常起居する部屋は南向の一番光線の入る部屋を選ぶがよい、たまにしか使はぬ客間に日當りの宜い部屋を選び、子供には北向きの

暗い部屋を當てるなどは、子供の衛生を無視した仕方です。次には新鮮な空気を呼吸させる事が大切です。不潔な空気がかり呼吸しておると、遂には呼吸器を傷ふ事になります。それには矢張り室内にばかり

我が園の武者祭り

り入つて居てはいけない、新鮮な戸外に出してやらねばなりません。是等の點は家庭のみならず、幼稚園や小學校などでは一層注意せねばならぬ事柄であります。

東京市四谷第一幼稚園

五月四日午後一時より本園の武者祭をいたしました。昨日から降りつゝいた雨は、今日も未だ晴れません。お庭に立てられた幟竿には、鯉も吹流しも付られませんが、幼児の登園にも困ることゝ朝から空のみながめて晴を祈つてをりましたが、どうも少しも止らずに降り通しました。しかし幼児は此雨にも元氣よく續々登園、思ひの外の出席多數でございました。朝の會集がすみましてから、自由に遊び十一時ごろお辨當にいたしました。零時半からそろそろお支度をして、一同遊戯室にはいりました。こゝは今日の餘興場でございます。室の三方に紅白の鯨幕を張り、正面には舞臺ができて、天井には各國國旗

が飾られ、常に見る室とは別に見へました。園長先生が之から武者祭の餘興をみなさんでしていただきませうと仰せられました。一同おとなしく待つて居ます。やがて松の組(年長兒)の良三とさぞうさんの御挨拶、にこゝととしていかにも嬉し相でした。次に梅の組(年少兒)の男兒三人鳩はつぽの唱歌、之は本年の新入園兒で、しかも小さいのに聲も大きく上手に出来ました。次は砂遊びの遊戯、(松の女)聲がちいさかつたので折角可愛らしい歌が、よく聴とれませんでした。次は牛若丸と辨慶の動作遊戯で、秀夫さんの牛若丸が白い被衣をかぶつた立姿の可愛らしさ、武者人形から抜け出て來たかのやうでした。薫さんの